

令和6年度 学校関係者評価書(様式)

<p>鈴鹿市立天名小学校</p>				
<p>評価項目</p>	<p>本年度の活動(具体的な手立て)と指標</p>	<p>成果と課題</p>	<p>今後の改善点</p>	<p>学校関係者評価</p>
	<p>①児童の主体性を伸ばし、探究する力(自ら課題を発見し、解決に導いていく力)を育成する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート4「人の話を聞くときは、相手を見てきちんと聞けますか」90%以上 児童アンケート5「授業中、自分の考えを発表しようとしていますか」90%以上 	<p>【アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート4の結果:93%(昨年度93% 昨年度比:±0%) 児童アンケート5の結果:80%(昨年度89% 昨年度比:-9%) <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート4の結果から、話を聞く時に、相手を見て聞くことができていますと回答した児童が多いと分かった。各学年で「聞き名人」「話し名人」を意識した指導が定着しつつある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート5の結果より、授業中自分の考えを発表することに苦手意識を感じている児童が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを発表するためには、1きちんと自分の考えをもつこと 2学級の中で互いの発表を聞き合える雰囲気であることが重要である。 1については、わかりやすい授業づくりを行うこと、児童の思考の流れに沿った簡潔な問いを行うことや困っている児童に対しては個別の支援を行いながら授業を進めていく。 2については、低学年の内からペアやグループ活動で他者に自分の意見を伝える機会を多くもつようにする。また、設定されたグループだけでなく、必要に応じて複線型の学習を取り入れながら、他者と意見を交流することの良さに気づくようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「聞き名人」、「話し名人」という児童がイメージしやすい名称で、わかりやすく目標設定が行えている。 児童アンケート4の結果が、昨年度同様に高く、聞く力が定着していることがわかり評価できる。 発表する児童にかたよりのないように感じる時があるので、発表をためらう児童にも機会を工夫してもらいたい。 全員が発表できる機会を作ってもらいたい。 複線型の学習とはどのような学習か説明があると良い。
	<p>②少人数を活かして一人一人の学習状況を把握し、それに合わせたきめ細かな学習指導をする。全教員による全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの自校採点と分析及び学Viva!!セットの活用。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート3「勉強はよく分かりますか」90%以上 教職員アンケート3「あなたは授業がよくわかるように工夫していますか」90%以上 全国学力学習状況調査:正答率全国平均以上 みえスタディ・チェック:正答率県平均以上 	<p>【アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート3の結果:94%(昨年度93% 昨年度比:+1%) 教職員アンケート3の結果:100%(昨年度91% 昨年度比:+9%) 学調(6年)(全国の平均正答率との比較) 国語 68%(+0.3%) 算数 67%(+3.6%) みえスタディ・チェック(県の平均正答率との比較) 5年 国語83.3%(+34.5%) 算数90.1%(+34%) 理科68.2%(+16.4%) 4年 国語90%(+32.2%) 算数82.7%(+23.7%) <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童/教職員アンケート3の項目は児童・教職員ともに結果が向上している。 どの学年も全国や県の平均は超えている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学調は、問題慣れをしておかないと正答が難しいため、問題慣れをしておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回授業改善ウィークを設け、教職員同士の授業を参観している。互いの授業を見て、学び合うことができるので、次年度以降も継続していく。 教職員アンケート3が昨年度より9%増加したことが、今後児童アンケート3の増加にも繋がっていく。すぐに結果が出るものではないが、1つ1つの積み重ねを大切にしていこうと、児童が「分かった!」と実感できるような授業づくりを目指す。 学調やみえスタの自校採点と分析は全教員で行い、授業改善に生かしている。 学調の結果を踏まえて、三重県教育委員会から提供されている学Viva!!セット(ワークシート集)については、長期休業中の宿題等として活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生方の自己研鑽によりきめ細かな学習指導をいただいている。 学調、みえスタの結果が、どの学年・どの教科も全国や県の平均を上回っており、日頃からのきめ細やかな学習指導の成果であると評価できる。 児童アンケート3「勉強はよく分かりますか」と教職員アンケート3「あなたは授業がよくわかるように工夫していますか」が向上したことは素晴らしい。 授業改善ウィークを設けるなど、互いに学び合ったり指摘し合える関係・環境づくりを行っている点が評価できる。 学力向上とともにテスト対応に限らず文脈を理解する力などの国語の力を高めていってもらいたい。
	<p>③家庭と協力して家庭学習の習慣を定着させ、基礎学力の向上を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート12「平日家で1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」勉強時間 1・2年生30分以上、3・4年生45分以上、5・6年生1時間以上 児童アンケート14「平日家で1日当たりどれくらいの時間読書しますか」読書10分以上 90%以上 	<p>【アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート12の結果: 1・2年生が 86% 3・4年生が 77% 5・6年生が 33% 児童アンケート14の結果:58%(昨年度60%昨年度比:-2%) <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 青少年育成部会で作成していただいた「家庭学習チェックシート」を活用しながら意欲的に取り組んでいる児童がいる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平日の学習時間についてはどの学年も目標時間を達成できている児童は少ない。また学年が上がるにつれて達成の割合は低くなっている。 平日家で読書をする時間が昨年度より減少している。 家庭でも学校でも学年が上がるにつれて読書をする時間の確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習チェックシートを活用して、児童自身がどれだけ家庭学習に取り組んだか見える化していく。シートを活用することにより、家庭でも応援していただけるように、学校だより・学級通信などで家庭に呼び掛けていく。 学年に応じて、自分で課題や量を定める自主学習の取り組みを進めていく。工夫して自主学習を行っている児童のノートをほかの児童に紹介し、意欲をもって取り組めるようにする。 地域の方に読み聞かせにより、低学年を中心に読書に親しんでいる。低学年の内から読書に親しむ習慣をつけておくことが重要なので、今後も継続していただきたい。 児童間で読書量や読むジャンルの幅に大きな差があったり、高学年になると読書をする時間がとりづらかったりという現状もある。学校だけ、家庭だけでは読書の習慣は定着しないので、ノーマディアウィークの取り組みを活用しながら、学校と家庭が連携して読書の声掛けをしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間と学力の関係に関する調査結果などを保護者に配布し、家庭学習が学力向上に関して有効であることを訴えることが有効である。 家庭学習については、時間の量も大切だが、質(内容)が大切である。 ①の「主体性を伸ばし探究する力」の育成につながる家庭学習に取り組ませたい。 チェックシートのバージョンアップを検討していきたい。 チェックシートは学年に応じた内容設定にするのも良い。 高学年になっても、読み聞かせは重要かつ効果的であり、是非、続けてもらいたい。
<p>学力向上×ICT活用</p>	<p>①授業において、「授業力UP5★」に基づき学習のねらいを達成するための手段として、効果的な活用場面を設定する。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート10、保護者アンケート10「あなたは(お子さんは)パソコンやプロジェクターを使った勉強は、好きですか」90%以上 教職員アンケート10「あなたはICT機器を効果的に活用した学習を心掛けていますか」90%以上 児童、保護者、教職員アンケート11「パソコンやプロジェクターなどを使った勉強は、大事だと思いますか」90%以上 	<p>【アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート10の結果:94% 教職員アンケート10の結果91% 児童、保護者、教職員アンケート11の結果:94% <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童・教職員アンケート10の結果から、ICT機器を活用することが好きという児童が多いことがわかる。 児童・保護者・教職員アンケート11の結果から、ICT機器を使った学習が重要と考える児童・保護者・教職員が多いことがわかる。 ICT機器をたくさん使おうとするのではなく、必要に応じて使うということができ始め、効果的な活用の場面が増えてきた。 教員、児童ともに、ICT機器を使うことが当たり前となり、良い意味で特別感がなくなった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員によって活用能力・頻度が異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員によって活用能力・頻度が異なるため、効果的な活用方法を模索・情報共有していく必要がある。 今後も学習に対して子どもの意欲が高まるようなICT機器の活用をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果からICTの活用が図られ浸透していることが分かり、大変評価できる。 課題である「教職員によって活用能力・頻度が異なるため、効果的な活用方法を模索・情報共有していく必要がある」は、ある程度の基準での活用ができれば良いと思うし、ICT機器以外の各教職員の持ち味、得意分野が生かされれば良い。 視力低下が心配である。 児童もスポーツクラブや塾等忙しい面もあるが、家庭の協力なくして目標達成は無理ではないでしょうか。 家庭でのパソコン使用について保護者にもルールを示して欲しい。
	<p>②児童の端末持ち帰り</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4年生以上は日常的に持ち帰り活用させる。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の予習として宿題を出すなど、学校での学習とつなげられる端末持ち帰りができている学年も出てきた。 1年生:長期休業のみ持ち帰り 2年生:1か月に数回持ち帰り →ミライシードやオクリンクでの宿題 3年生:毎日~1か月に数回持ち帰り →予定の確認、オクリンクプラスでの宿題 4年生:ほぼ毎日持ち帰り →予定の確認、ミライシードやオクリンクの宿題 5年生:ほぼ毎日持ち帰り →予定の確認、ドリルパークの宿題、国語の課題(ドキュメント) 6年生:ほぼ毎日持ち帰り →国語や総合の課題(ドキュメント) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿題で毎日の端末持ち帰りとなると、内容が薄くなってしまったり、端末である必要があるのかという問題が出てきた。 日常的な持ち帰りが目的にならないようにしないといけないと感じた。 持ち帰ったときに充電を忘れられる児童もあり、授業中に充電がなくなるということが起きることがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な端末持ち帰りができるようにICT支援員からも意見をもらいながら取り組んでいきたい。 中学校区で情報を共有しながら内容を考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年によって、持ち帰り対応をしてもらっているが、一部の保護者からは重たいのではという声があった。 持ち帰って何をさせ、どんな成果を期待するのかを、目標値にするのも良い。 端末を使った宿題がある日のみ持ち帰るということで、予定の確認だけの日は、持ち帰る必要がないのではないか。 パソコンでするものや手書きでするものに整理して活用することも大切である。
	<p>③ICT校内研修会の実施</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間8回 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度から導入された「オクリンクプラス」についてICT支援員から研修を行った。 6回実施(年度内にあと2回予定) 新しいソフトやアプリでも研修で教えてもらうことでスムーズに授業に取り入れることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習に活用できるソフトやアプリに限りがあるため、研修内容が昨年度と同じ・似ている内容になってしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT支援員と連携を取り、最新のソフトやアプリについての情報を得ていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も新しいアプリやソフトの最新情報の研修、有効活用をして欲しい。 ICT支援員との連携はとても重要であり、業務も他にもたくさんあると思うので、負担のないように、研修計画を立てて、取り組んでもらいたい。

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
長期欠席対策	<p>①不登校を生まない、いじめのない学校・学級づくり自尊感情・自己肯定感を高める取り組みの推進</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート6「学校で友達と仲良くしていますか」90%以上 保護者アンケート6「お子さんは毎日楽しく学校へ行っていますか」90%以上 児童アンケート1「自分には良いところがあると思う」80%以上 	<p>【アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート6の結果:100% 保護者アンケート6の結果:97% 児童アンケート1の結果:87% <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート6の結果にあるように、児童全員が友達となかよく過ごしていると回答している。また、保護者アンケート6の結果より児童が学校生活を楽しく送ることができている。 自己肯定感についてのアンケートの結果は、評価指標を上回り、昨年度と同程度の数値となっている。(昨年度:89%) ピンクジャン運動やいじめ防止川柳等の学校全体でもいじめを許さない学校づくり、安心できる居場所づくりに取り組むことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感についてのアンケートでは、特に4～6年生で否定的な回答が多くみられた。思春期に入るこの時期の児童一人ひとりに活躍の機会が与えられるような環境づくりを行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの回答上の数値としては高水準であるが、児童それぞれが抱えている悩みや表面化していない問題などが考えられるため、より細やかな配慮や個別の相談が必要となる。 思春期における自己肯定感の低下を防ぐため、児童それぞれの良さを出すことができる機会やお互いを認め合っていけるような活動を積極的に取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校、いじめはこの学校でも、いつ起こっても不思議ではなく、また、全国的に増加傾向にあると言われる中、現在、不登校児童はゼロ、いじめ認知もゼロであるという説明を聞き、大変、嬉しく思い、普段からの先生方の指導や取組の成果である。 丁寧なお互いの話を聴き取りしてくださる事に安心している。 始めから怒るのではなく、まずは子どもの意見・理由を聞く、そうすることで、児童と先生の信頼関係が生まれ、更に相談しやすくなる。
	<p>②いじめアンケートの実施と教育相談の充実。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートを年間3回実施し、その後教育相談を行う。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学期に1回はいじめアンケートを実施(3学期は1月に実施予定)。 アンケート実施後は個別相談「おしゃべりタイム」を実施し、各担任が学級の全児童と面談を行った。面談の内容はいじめに関わるものに限らず、生活面や学習面など様々な話を 行った。児童それぞれの困り感を把握し、安心できる学校生活を送れるように解消・改善に努めた。 全職員で全児童を見守り、職員会議や打ち合わせでは児童の様子を伝えあい、また、職員同士が日常会話の中で児童の情報を交換し合うことで、児童の実態を把握し、対応していくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も児童との関わりを大切にしながら、職員同士での情報交換を密にし、組織的・計画的に積極的ないじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> おしゃべりタイムの取り組みは効果大と考える。良い取り組みであり、成果にも表れてきている。 新たな小学校に向けても現在の取組を継続して欲しい。 毎日の見守りでは挨拶とほめ言葉を意識しており、相手を大切にする気持ちとほめ言葉をお願いしたい。 学校再編がいじめの原因にならないように、学校間の交流を深めて欲しい。
地域連携	<p>①協働型コミュニティスクールの推進。学校が抱える課題に対して、学校・保護者・地域がそれぞれの立場から主体的に課題解決に向けた取り組みを進める。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 協働型コミュニティスクールの理念仕組みについての説明を行う。1回以上 学校再編に向けた準備を行う。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 天名小学校学校経営方針について、熟識をいただく中で、協働型コミュニティスクールの理念のもと、学校・保護者・地域が内容について共通理解をすることができた。そして、新たな取り組みとして、学校地域合同防災学習を実施することができた。 天栄中学校区合同学校運営協議会において、非認知能力の育成に向けての講演を実施した。これにより、新たな取り組みをするのではなく、これまでの取り組みにおいて非認知能力を意識していくことで、学校・保護者・地域がそれぞれの立場でできることがあることを確かめることができた。 学校再編準備委員会の各部の進捗状況を説明していただける場をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も、学校再編に向けた準備を進めるために、事項書に毎回、学校再編準備委員会の進捗状況を説明する項目をつくるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携は十分できていると思う。 先生、保護者、地域が十分、連携がとれているので、コミュニティスクールとして成立している。 今年度初めて実施した学校地域合同防災学習は、綿密な打ち合わせをして、ブラッシュアップしてきたい。 過去から考えると、かなり開かれた小学校になっていると考える。 協働型コミュニティスクールの理念などについて学校側から説明を受ける機会があり、徐々に、地域に浸透していると感じる。 学校、保護者、地域がそれぞれの立場から学校の課題解決に向けた主体的な取組が行われており、評価できる。 学校再編に向けて目指す児童像についても三校ではっきりとまとめられるように具体的に示して欲しい。 地域文化の異なる三校が合流するので、学校行事等に対する考え方も違うと思うが、児童の成長を中心に考えて欲しい。
	<p>②ふるさと先生を積極的に活用した教育活動を行う。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート9「地域と連携した体験活動は、お子さんにとってよい学習になっていますか」90%以上 	<p>【アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート9の結果:97% <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 米つくりやサツマイモ栽培では今年度もふるさと先生に大変お世話になり子どもたちにとって貴重な体験学習になっている。 天名マイふれあいフェアでは、ふるさと先生に出前授業をしていただき学年に応じた学習活動ができた。 毎日の登下校の見守り、読み聞かせ、家庭科の調理実習支援、平和学習、1・2年生のさつまいもケーキつくり、マラソン大会等、さまざまな教育活動において支援いただいた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休みに愛エンジェル隊学習会を設け中学生に小学生を教えてもらう機会を作ったが、台風接近のために中止となった。とてもいい機会なので、予備日を設定する等して可能な限り実施できるようにするとよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校再編委員会学校運営部において「新たな小学校」の教育課程について検討している。令和8年度以降のふるさと先生を活用した教育活動をどのようにしていくのかについても検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域コーディネーターが良く動いていただき、ふるさと先生の人選や調整、諸準備に尽力いただいているのも大きい。 R8の学校再編後もふるさと先生の活動は、是非、継続していただきたい。 ふるさと先生との関わりは、学校の授業支援だけでなく、様々な取り組みの中で見守っていただき、子ども自身が「自分がこの地域の中で育っている」、「見守られている」と感じられるとても良い活動だと思う。学校再編後も是非、生かしていきたい場である。 新たな小学校において、どう取り組んでいくか関係者で検討していく必要がある。 伝統の愛エンジェル隊学習会は台風に伴う早めの中止決定であったが、当日の天候は大丈夫であり、中学生にとっても良い経験になるので、できる限り実施して欲しい。
	<p>③学校からの情報発信を積極的に行う。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校便りの発行 月1回以上 学校ホームページの更新 月1回以上 保護者アンケート17「学校は、通信、ホームページ、メール配信などで、情報を家庭へ積極的に提供していると思いますか」90%以上 	<p>【アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート結果:97% <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校便り発行回数 16回(11月末時点) 学校再編に向け、合川小や郡山小の活動の様子も地域の方に知ってもらうため、三校合同で実施した交流会や社会見学についても掲載するようになった。 学校ホームページ更新:週1回以上更新できている。 今年度も、拡大カラー印刷をした学校便りを、御園と徳田の両ふれあい会館、天名公民館に掲示し、地域の方に読んでいただきやすくした。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新については、タイムリーに情報発信を行うようにする。 社会見学等で交通状況等で、学校への到着時刻が予定と変更がある場合は、保護者・地域にご心配をかけないように、引率者が正確なメール配信を行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりを回覧で見ると楽しんでいる高齢者の方もおり、また、拡大コピーをふれあい会館・公民館に掲示していることも評価できる。立ち止まって見ている地域の方をよく見かける。 メール配信・学校だよりは必要な情報が伝えられていると思う。 ホームページについては地域の人はどの程度見ているのか。もっとPRをしていくと良い。
非認知能力の育成	<p>①非認知能力の育成を意識した教育活動の推進を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鈴鹿市版非認知能力アンケート「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」肯定的回答 85%以上 「社会性」90%以上 	<p>【アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鈴鹿市版非認知能力アンケート肯定的回答「やりぬく力」:85.3% 「自制心」:88.2% 「自己肯定感」:88.2% 「社会性」:100% <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館前に非認知能力に関する図書を展示した。 非認知能力に関わる教職員研修を実施し、それに基づき学級担任が学年に応じて、非認知能力の授業を行った。そして、日常の授業とともに学校行事において非認知能力の育成を意識した声掛け等の支援を行った。 読み聞かせボランティアさんからも非認知能力の育成を意識した本を選んでいただき、読み聞かせをしていただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等において、学年に応じた方法で、非認知能力(4項目のうち1つ以上)に関わる児童の振り返りを実施し、児童がより非認知能力を意識して行事に参加できるようにしていく。そして、学校行事後、児童同士がお互いの頑張りを成長を認め合うことで、一人ひとりに自信をもたせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 4項目ともに指標を上回り児童に定着しつつあると評価できる。特に「社会性」の100%は素晴らしい。 教職員の更なる負担にならないようお願いしたい。見える化が難しい課題であり、児童が生き生きと楽しく過ごせる学校であれば、自然と育つ力だと思う。 来年度はどのような取組で推進されるのかを明示してもらいたい。 学校教育だけでなく、保護者・家庭を巻き込んだ取り組みが必要である。家庭が育てる活動として範囲を広げていべきである。 非認知能力の育成においては、口頭指導は非常に難しいと思う。高学年の姿を参考に、低学年が学ぶためには縦割りの学習が有効である。

評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
人権教育	<p>①仲間づくり・途切れない指導に取り組む。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権レポート研修 年間2回 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月に第1回、2月に第2回(予定)の人権レポート研修を行った。レポート交流を行うことで、自分の指導を振り返ったり、各学級の取り組みや課題を共有したりすることができた。また、担任以外が見ている児童の様子を交流することで、児童のいろいろな面を知ることができ、仲間づくりに生かすことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も教員同士が連携し、情報共有を密に行い、差別やいじめを許さない学校づくりに努めていく。 ・指導者が人権感覚を磨き、児童の手本となれるよう、研修を重ねていき、教育公務員としての責務を自覚しながら指導力向上に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方の取り組み、指導により良好な状態が出来ていると思う。 ・「不登校を生まない、いじめのない学校・学級づくり」と関連して、今後も学校全体、全教職員で取組を継続、推進して欲しい。 ・人権レポート研修に加えて、日常的な会話の中の言動にも注意していく必要がある。
	<p>②縦割り班活動を通じて異学年交流を行う。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表委員主催のなかよし集会を年に1回実施する。 ・代表委員主催のふれあい遊びを週に1回実施する。 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかよし集会、ふれあい遊び共にほぼ指標通りに実施することができた。なかよし集会では、上級生がゲームのルールやコツなどを教える姿が見られ、異学年で協力する様子を見ることができた。 ・ふれあい遊びでは、学年問わず、みんなで遊びを楽しむ姿が見られた。また、企画する代表委員も低学年が楽しめるゲームや遊びを考えることで、自分たちだけでなく、周りの人のことも考える良い機会となっている。 ・掃除も縦割り班で行っている。高学年がリーダーシップを発揮し、低学年にそうじのしかたを教えたり、指示を出したりして、協力して掃除を行うことができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、全校児童が関わり合える縦割り班活動を取り入れていく。 ・代表委員以外の児童の意見も取り入れながら、ふれあい遊びやなかよし集会の内容を充実させていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班活動や異学年交流の取組は成果が出ており評価できるので、今後も継続して欲しい。 ・防災教育の時に、縦割り班、登校班などの班活動を通して、仲間づくりをする、緊急の際にお互いを思いやる協力ができると思う。 ・縦割り班活動は素晴らしい取り組みであるが、高学年のリーダーシップが絶対的になってしまわない様にして欲しい。低学年でも高学年に意見を言える雰囲気や大切にしてもらいたい。 ・代表委員、高学年としての意識を育てるとも良い機会ととらえて、教職員の助言、見守りのもとで、下級生や周りの子どもとの関わり方を身につけていって欲しい。
	<p>③校区連携の充実を図る。</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生全員参加の校区人権フォーラムの実施 ・5年生の四校交流会の実施 ・オンラインを用いた他校との交流会の実施 	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校区人権フォーラムも4校交流会も、他校の児童と関わることで、多様な価値観や考えに触れることができる貴重な機会となっている。また、積極的に自分の考えを伝えたり、他校の児童と積極的にコミュニケーションをとろうとしている姿も見ることができた。 ・1～4年生と特別支援学級で、各学年2回、台川・郡山小とオンライン交流を実施し、1回郡山小学校に集まって交流を実施した。自己紹介や一緒にレクリエーションを楽しむことで、他校の児童と仲良くなることができ、新しい人間関係を築くことができ、新たな学校へ向けての良い連携となった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校は少人数であり、クラス替えもないので、価値観や考えが固まりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、校区連携を図っていき、中学校や新たな学校へ進んだ時に、スムーズな人間関係の構築へとつながるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の取組に感謝いたします。保護者も参加できる行事があると更に望ましいと思う。 ・中学校や学校再編に向けて、それぞれの児童と接する機会を各学年で行っており、来年度は更に機会を増やしてもらいたい。 ・「新たな小学校」の開校に向けて児童が安心・安全なスタートができるように、今後も校区連携の充実を図って欲しい。 ・オンラインでの交流だけでなく、郡山小学校への見学も更にお願いしたい。 ・学校再編や中学進学など、これから起こる環境の変化に対応できるよう、学外との関わりを持つ機会をどんどん取り入れて欲しい。